

B2Gの商談
活発に展開

台北でEPIF

アジア生産性機構(APO)は、13~16日の5日間、台湾・台北市の台北世界貿易センターで第9回エコプロダクツ国際展(EPIF2014)を開いた。これまでのEPIFで行われてきた企業



馬英九総統

EPIF初日夜に行われた出展企業対象のレセプションであいさつに立った台湾の馬英九総統は、「環境対策は世界的に経済発展の原動力になっている。台湾はさまざまな環境に関する取り組みを行い、08年からこれまでの間にCO₂排出量の世界シェアを1%から0.8%まで低減させた。一例としては12年に全ての信号をLED電球に変えており、今後は全地域の街路灯を発光ダイオード(LED)電球に取り換える予定だ」と述べた。

間取引(B2B)や企業対消費者取引(B2C)に加え、今回は企業対政府間取引(B2G)を取り入れ、各企業は台湾政府の調達関係者と直接話し合うことが可能になった。ビジネスを対象を絞った最初の2日間には内外のバイヤーら約3千人が来場し、政府向けと事業者間で合わせて5千万米ドルの商談が行われた。

アジア地域での「緑の生産性(GP)」向上を目指すAPOは、04年からマレーシア、ベトナム、シンガポールなどアジア各地でEPIFを開催してきた。台湾では初の開催で、過去最大規模の207社・団体が出展した。